

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成27年度第3回情報教育研究委員会情報教育高大接続分科会議事記録

I. 日 時：平成28年2月3日(水) 9:00~11:00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局

III. 参加者：箕主査、植原委員、渡辺委員、西垣委員、飯塚委員、天良^{トバイ}伊^イ
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

情報を担当する高校教諭の情報担当指導力を支援するため、動画コンテンツ提供による支援の可能性について、動画教材を掲載したページのアンケートを実施して関東地域11名の教員から意見を受けた。アンケートの意見から今後の対応について以下のような検討が行われた。

1. 教材・動画コンテンツについて

- ・ 授業で使ってみたいかについては、教材によって違いがあるが3割から6割程度の希望であった。理由として難しい、時間が長い、余裕がないなどがあり、使わなくとも授業はできるや本物を見せたいとのアンケート意見があった。
- ・ アンケートのコンテンツ提供支援の是非と希望教材については、有ればありがたい、条件付の希望などがあった。希望教材では、企業のインタビュー、最新の情報システムや施設関連など有用なコンテンツを求めているが、教材自体はネット上に既にたくさんあるとの意見があった。
- ・ ただし、個々のコンテンツについてアンケートの質問は授業で使うかの問いかけにしたが、教材の作りとしては、アンケートの前文に説明をいれた教員の支援が目的のため、直接授業で使う前提であれば時間を短く作成したり特長を前面に提示するなど作り方を変えていたこともあり、作成コンテンツと質問との開きはある。個々のコンテンツへの質問の次に本来聞きたかった支援の是非を問いかけた形にしている。

2. 求められる支援の在り方について

- ・ 情報教育の高大接続での希望は、情報倫理の出前授業、最新のものづくりや研究の紹介、学生による情報授業の支援、大学・高校双方の情報教育内容の理解や交流などがあった。
- ・ コンテンツが増えたところで活用にはつながらず、高校で本来の情報授業が展開できるような研修などの取り組みが必要などの意見があった。理科ネットのような豊富な素材があるものを希望される一方で、豊富な教材は求められているが、教諭が希望することにピッタリ沿わないと利用されないことが想定されることもあり、私情協の事業範囲ではないのではないかと考えられる。
- ・ 高校教諭全体を考えた場合、知識、技能、意識などの違いからどのような教育が必要であるのかを伝えるためには強制的な場や枠組みが必要なのではないか。
- ・ 情報教育の必要性をうたえるなど大きな活動が求められ、例えば、大学入試に情報の試験を入れること、高校までにどのようなことを学んで来てもらいたいのか、その上で大学と

してはどのようなことを教育したいのか、そのために高校ではこのレベルまでを学んでいないと大学で困るなどの提示を希望しているのではないか。高大接続としては入試の話しか聞こえてこない感じもあり高校の現場でのギャップがあるのではないか。

- 教諭の指導能力向上のため、情報教育としてやらねばならない教育の場づくりなどは必要ではないか。どのようなことを考える必要があるのか教諭全体で理解を共有することが求められる。求められる情報教育の部分はリテラシーの研究の中で進めることではどうか。
- アンケートの意見を踏まえて本分科会としては、大学教員による教材提供の支援を全国的に展開する計画をイメージしていたが積極的なニーズがないと判断し教材支援の研究を終了することにした。
- 作成済み教材の取り扱いについては、アンケート依頼文を消去して公表ページはそのまま残し、教科情報の教育に活用するための教材として作成したので参考にしいて活用いただくことで、他の委員会、研究会、研究会などで委員からお知らせいただく形でのロコミ運用で利用することにした。

3. 今後の対応について

- 今回をもって情報教育高大接続分科の活用は休止とし、理事会及び総会で今回の分科会の検討結果を報告として高校教員の教育指導力及び情報活用力の促進支援の可能性について説明することになっている。